

VMware vSAN環境におけるデータ保護

複雑なVMwareデータ保護

仮想化により、サーバーや一次記憶装置の利用率は劇的に向上されました。またVMware Virtual SANの登場により、従来型仮想化環境に必要とされた高価な共有ストレージも不要となり、プライベートクラウド環境の構築は非常にシンプルになりました。

しかし、このような仮想環境の保護や増え続ける構造化/非構造化データのために、オンプレミスにはいまだに複雑な二次記憶モデルが必要とされ、多大な管理工数とインフラ費用が生じています。

また、事業継続性と情報ガバナンスに関するビジネスニーズは年々高まっています。こうした中で、従来とは異なるインフラ回復性および長期保存によるデータ保護要件を具現化する方法が求められています。

クラウドによるデータ保護への期待と課題

クラウドは弾力的にワークロードを処理し、低コストなストレージモデルを使用できるため、データセンターの代替として大きな可能性を秘めています。しかし、クラウドを既存のインフラと連携させる場合、以下のような課題が生じます。

- ・従来の二次ストレージやテープ向けに設計されたバックアップのアーキテクチャと、クラウド環境におけるアーキテクチャとの不一致
- ・オンプレミスの各機器における回復性と拡張性のボトルネック
- ・複数に階層化されたストレージ、複数ベンダー、部分的ソリューションのつぎはぎによる非効率性
- ・非効率的な重複排除：複数の再結合/重複排除手順
- ・クラウド環境の構築、運用、課金のノウハウ不足と人員不足

不慣れな複数のアーキテクチャ要素やベンダーが存在すると最終的には全体のプロセスが複雑になり、高価でエラーが起きやすくなります。また、環境におけるデータの分散化とともに、データの保管場所やガバナンスに関する新しい規制が問題をさらに複雑にしています。

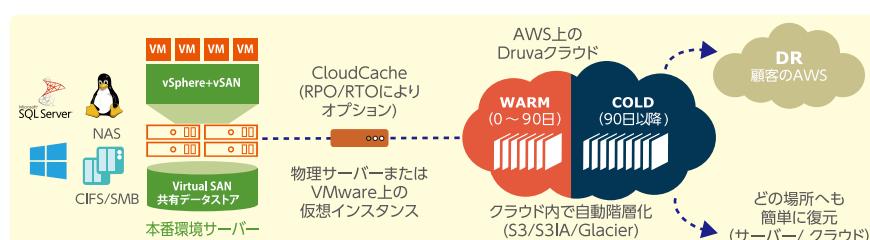
Druva PhoenixによるVMware環境のデータ保護

これらの課題を対処するため、Druva Phoenixはバックアップ、ディザスタリカバリ、長期アーカイブ、分析機能を統合し、VMware環境を保護するために設計されたクラウド型のデータ保護を提供します。VMwareとDruvaが密に連携することで、仮想化ソリューションの最善の組み合わせと、迅速なクラウドデプロイメントによるデータ保護の恩恵を受けられるようになります。

Druva PhoenixはAWSパブリッククラウド上で構築され、簡単、安全で、拡張性が高いとともに、AWSの全リージョンでグローバルに展開することができます。

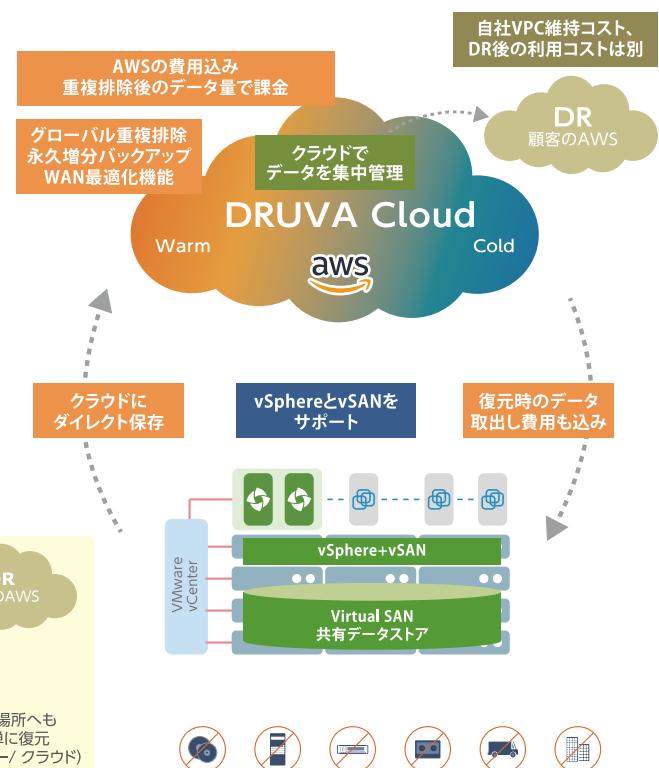
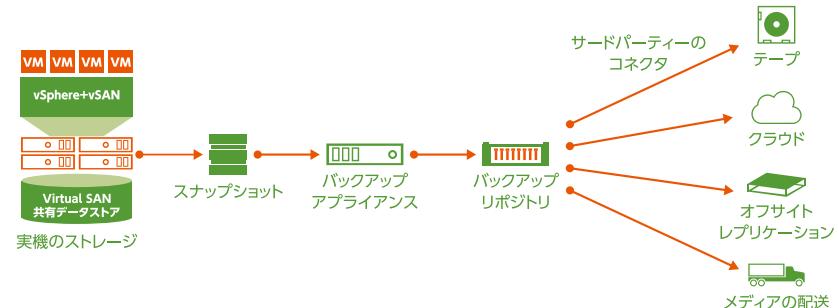
クラウドへダイレクト、ハードウェア不要のバックアップ/アーカイブ

Druva Phoenixの利用に、高価なハードウェアやソフトウェアは不要です。AWS利用費用を気にすることなく、オンプレミスのワークロードをクラウドへ直接バックアップ/アーカイブでき、クラウドDRを利用することができます。



ハードウェアや他社ソフトウェアは不要

クラウドにダイレクトにバックアップ、復元、アーカイブが可能です。必要に応じてクラウドにDRが可能です(DRaaS)。追加ハードウェア、ソフトウェア、煩雑な管理は不要です。(CloudCache利用時は別途ハードウェアまたは仮想インスタンスが必要になります。)



様々なワークロードをサポート

PhoniexはVMware vSphere環境において、VADPプロキシを使用したエージェントレスによるクラウドへのダイレクトバックアップをサポートします。またVADPのCBT(Change Block Tracking)機能を利用することで、vSAN上のデータをクラウドへ効率的に差分バックアップすることができます。仮想化されたワークロード以外にも、MS SQLやNASのワークロードもエージェントを使用してシステムを中断することなくバックアップすることができます。

高い復元性、可用性、拡張性とワークロードの可搬性

Druva Phoniexは高い復元性(Resiliency)、可用性(Availability)、拡張性(Scalability)を実現し、すべてのリモートサイトの情報を集約してガバナンスを提供します。さらにワークロードの可搬性とDR(災害復旧)、Test&Dev(テストと開発)やクラウド上へのワークロードの移行を実現します。

VMware連携

- vCenter連携:** 仮想マシンの自動検出、CBT(変更ブロック追跡)設定、ゲストOSの処理およびバックアップ実施を、バックアッププロキシにより連携します。
- ポリシーによる集中管理:** VM Group、RPO、RTOのポリシーを簡単に設定できます。
- プロキシの負荷分散:** vCenterで複数のバックアッププロキシをデプロイし、多数のバックアップ要求を自動的に負荷分散するよう設定することができます。

Druva Phoniexの特長



Druva Phoniexライセンス体系

プラン名	Business	Enterprise	Elite
ファイルサーバーのバックアップ Windows ServerとLinuxのバックアップ	●	●	●
SQLサーバーのバックアップ MS SQL Serverのアプリ対応バックアップ	●	●	●
VMwareのバックアップ VMware仮想マシン(VMDK, VMX)のバックアップ	●	●	●
グローバル重複排除後の従量課金	●	●	●
VMwareのファイル単位の復元	●	●	●
クラウドキャッシュ機能 社内サーバーへの一時的な保存による高速化	●	●	●
マルチサイト管理のサポート サーバーやバックアップポリシーの論理分割	●	●	
マルチリージョンのサポート 複数のAWSリージョンが使用可能	●	●	
Cloud DRaaS(災害復旧) / テストと開発	オプション		●
データの分析と検索 ※将来予定			●

Phoenixエージェント

サポートするプラットフォーム

Windows Server

- Windows Server 2016, 2012 R2, 2012, 2008 R2, 2008 (64ビット)
- Windows SBS 2011 (64ビット)

VMware

- ESXi Standard 5.5, 6.0, 6.5 11.4, 12.2(64ビット)
- vCenter Server Standard 5.1, 5.5, 6.0, 6.5

Linux

- CentOS 6.3~6.8, 7.0~7.2 (64ビット)
- RHEL 6.3~6.8, 7.0~7.2 (64ビット)
- Ubuntu 14.04, 16.04 (64ビット)
- Oracle Linux 6.8 (64ビット)
- SUSE Linux Enterprise Server (SLES)

ファイルサーバーおよびSQLサーバー向けPhoenixエージェント

ハードウェア	最低要件
CPU	<ul style="list-style-type: none">2.0GHzデュアルコア (Intel Core)2.4GHz (AMD) または同等相当
RAM	<ul style="list-style-type: none">Windows ServerおよびLinuxサーバーではC:\または/varにそれぞれ合計ソースデータの2%の容量が必要
ディスク空き容量	<ul style="list-style-type: none">Windows ServerではVSSスナップショット用に10%のボリュームサイズが必要

まとめ

分散環境における仮想マシンのバックアップおよびリストアの管理は、多くの人員と複雑なインフラが必要となる手間のかかる作業です。Druva Phoniexは環境に全く影響を与えないクラウドダイレクトのソリューションを使い、グローバルに分散されたVMware環境のバックアップとリカバリを一元化することにより、プロセスとインフラを効率化します。新規ハードウェアやソフトウェアが不要となり、管理時間が短縮されることにより、業務の俊敏性を向上させ、全体のコストを劇的に削減します。

30日間の無償評価ライセンス

30日間、Druva Phoniexをお試しいただける評価ライセンスを無料で発行しております。お気軽に問い合わせください。